

【交通圏】	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)					
	運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】 A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず	輸送量(人)		収支率(%)								
								R3計画	R3実績	(平均乗車密度)	(運行回数)			R2実績	R3実績			
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	47	岡崎・西尾	東岡崎～西尾	コロナ禍での安心利用に向けて、車内美化や換気、定時運転確保や安全運転に努めた。また、「駅探」に路線情報を反映させた。沿線の岡崎市ではバスマップを配布し周知を行ったほか、西尾市では安心・安全なバス利用のPRや、通学定期補助を行った。	B	停留所の早発が判明したため、該当便を運休とした。	B	目標：181,100 実績：127,582(70.4%) ※前年度比105.0%	79.8	50.5	3.1	16.3	72.6 47.1	46.3	市を跨ぐ利用者は、月平均1,825人で全体の18%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。岡崎市から西尾市への通勤・通学等の交通手段として利用されているほか、西尾市から岡崎市への通勤・通学利用としても使われている。 《地域的・フィーダー的系統》(西尾市)六万石くるりんバス、(西尾市)いこまいカー	藤田医科大学系統を新設したが、その動向をみつつ、改善余地がないか検討する。また、岡崎市では、デマンド型乗合タクシーとの乗継利便性や感染対策等の安全性の周知など、西尾市では、公共交通利用講座等の開催により、安心・安全なバス利用をPRする。
			48	岡崎・西尾(西尾市民病院)	岡崎駅西口～若松町～西尾	コロナ禍での安心利用に向けて、車内美化や換気、定時運転確保や安全運転に努めた。また、「駅探」に路線情報を反映させた。沿線の岡崎市ではバスマップを配布し周知を行ったほか、西尾市では安心・安全なバス利用のPRや、通学定期補助を行った。	A	補助対象期間の開始日から運休はなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	A	目標：67,900 実績：75,431(111.1%) ※前年度比137.7%	44.0	30.1	2.6	11.6	64.4 56.3	46.9	市を跨ぐ利用者は、月平均1,039人で全体の約22.8%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。JR岡崎駅と西尾市中心部を結ぶ市域を跨ぐ路線であり、沿線には西尾市民病院、西尾東高校があり通院、通学の足として地域住民の移動手段を確保している。 《地域的・フィーダー的系統》(西尾市)六万石くるりんバス、(西尾市)いこまいカー	藤田医科大学系統を新設したが、その動向をみつつ、改善余地がないか検討する。また、岡崎市では、デマンド型乗合タクシーとの乗継利便性や感染対策等の安全性の周知など、西尾市では、公共交通利用講座等の開催により、安心・安全なバス利用をPRする。
03岡崎 09刈谷・安城・碧南・西尾	安城市	東伸運輸(株)	61	あんくるバス(東部線)	北部福祉センター～北部福祉センター	時刻表・マップの作成・配布等による情報提供を行うとともに、新たに、外国語版の時刻表・マップを作成した。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	B	目標：32,000 実績：22,422(70.1%) ※前年度比86.2%	31.7	24.8	3.6	6.9	8.3	7.6	市を跨ぐ利用者は175人/月と想定され、広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。また、鉄道駅への乗換利用や、通勤、飲食・娯楽等のためお出掛け利用者が多いと考えられる。 《地域的・フィーダー的系統》名鉄バス安城線、あんくるバス(北部線、循環線、安祥線)	アンケート等により利用状況等を分析し、地域公共交通計画を策定する。また、バスロケーションシステムによる運行状況(遅れ等)の把握・分析・改善、バスの乗り方教室や無料乗車キャンペーン等の実施のほか、デジタル技術の活用を検討する。沿線の岡崎市では公共交通マップの作成・配布や感染対策等の安全性の周知を図る。
04一宮	一宮市	名鉄バス(株)	14	iーバス(一宮コース)	木曾川庁舎～市民病院	バスマップの配布、1日乗車券の発売、及びiーバスの情報のGTFS化により、利用促進を図った。また、バス停と離れた地域を結ぶ予約制乗合タクシー(iーバスミニ)の運行により、バスの利便性向上を図った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	B	目標：99,298 実績：63,597(64.0%) ※前年度比89.7%	42.2	26.7	2.6	10.3	27.7	24.0	一宮市と旧尾西市・旧木曾川町を跨ぐ利用者は4,445人/月と推定され、全体の84%を占め、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。総合病院及び一宮駅への利用が大部分と考えられる。 《地域的・フィーダー的系統》iーバス(尾西北コース、木曾川・北方コース、大和町・萩原町コース、千秋コース)、iーバスミニ	一宮駅～市民病院間は路線バスと競合しているため、利用者ニーズに合ったより効率的な運行方法への改善・検討が必要。バスマップの配布、1日乗車券の発行及び、高齢者向けの講座等におけるバスのPR等により、引き続き利用促進を図る。また、バスを利用した施設案内チラシ等を充実させ、利便性の向上を図る。
04一宮	一宮市	名鉄バス(株)	15	iーバス(尾西南コース)	萩原駅～萩原駅	バスマップの配布、1日乗車券の発売、及びiーバスの情報のGTFS化により、利用促進を図った。また、バス停と離れた地域を結ぶ予約制乗合タクシー(iーバスミニ)の運行により、バスの利便性向上を図った。	A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	B	目標：40,409 実績：30,875(76.4%) ※前年度比95.6%	35.8	29.6	3.8	7.8	8.5	7.7	一宮市と旧尾西市を跨ぐ利用者は、月平均708人と推定され、全体の27%を占め、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。病院への通院及び萩原駅への鉄道接続の利用が大部分と考えられる。 《地域的・フィーダー的系統》iーバス(尾西北コース)、iーバスミニ	バスマップの配布、1日乗車券の発行及び、高齢者向けの講座等におけるバスのPR等により、引き続き利用促進を図る。また、バスを利用した施設案内チラシ等を充実させ、利便性の向上を図る。

【交通圏】	①補助対象事業者等		②事業概要		③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況					⑥複数市町村を跨ぐ系統/幹線系統としての役割	⑦事業の今後の改善点(特記事項を含む)		
	運営主体	運行事業者	系統名	運行区間			【計画目標指標：利用者数】		輸送量(人)		収支率(%)				
							A：達成 B：未達成 C：目標の半数にも満たず		R3計画	R3実績	(平均乗車密度)			(運行回数)	R2実績
09刈谷・安城・碧南・西尾	名鉄東部交通(株)	名鉄東部交通(株)	49 一色	西尾市民病院～一色町公民館	沿線地域での催事及び道路状況の情報収集に努め、定時運行の確保を図った。沿線の西尾市では、安心・安全なバス利用のPR、通学定期補助、などを実施し、利便性向上に努めた。	A 計画通り運行が実施された。	B 目標：88,858 実績：69,817(78.6%) ※前年度比90.9%	30.1	22.8	2.2	10.3	43.7	37.3	西尾市と旧一色町を跨ぐ利用者は、月平均6,179人で全体の96.6%を占めており、広域的な路線の役割を果たしていると考えられる。通勤通学や通院利用のほか、西尾駅から当系統を利用して佐久島へ向かう観光客や一色地区と西尾市中心部を跨る利用が多く見られる。 《地域的・フィーダー的系統》 (西尾市)六万石くるりんバス、(西尾市)いっちゃんバス、(西尾市)いこまいかー	利用促進を図るため、「憩の農園」への路線延長について、関係者との協議を進める。また、定時運行確保のため、道路状況の把握に努める。
	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	12 ふれんどバス①	吉良高校～碧南駅	ICカードの導入による乗降時間を短縮するとともに、バスロケーションシステムの提供を開始し、利便性向上を図った。また、沿線市ではGoogleマップへの路線情報反映、沿線高校へバス通学を促すチラシの配布等を実施した。	B 緊急事態宣言発令のため、始発地を21時30分以降に発車の便が109本運休となったが、それ以外は所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B 目標：181,200 実績：127,763(70.5%) ※前年度比77.3% ふれんどバス2系統合算前年度比74.3%	63.0	45.3	3.6	12.6	26.2	23.0	市町域を跨ぐ利用者は、月平均12,390人で全体の95.8%を占める。利用の内訳は通学定期58.8%、現金・ICSFの定期外23.0%の順に多い。沿線の高校への通学利用のほか、碧南駅を利用していると考えられる。 《地域的・フィーダー的系統》 名鉄東部交通バス(一色線)、(西尾市)六万石くるりんばバス、(西尾市)いこまいかー	継続してスマートフォンでの時刻検索、バスロケーションシステムの提供、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行う。
	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	13 ふれんどバス②	吉良高校～碧南高校	ICカードの導入による乗降時間を短縮するとともに、バスロケーションシステムの提供を開始し、利便性向上を図った。また、沿線市ではGoogleマップへの路線情報反映、沿線高校へバス通学を促すチラシの配布等を実施した。	A 計画通り運行が実施された。	B 目標：157,900 実績：127,603(80.8%) ※前年度比71.5% ふれんどバス2系統合算前年度比74.3%	46.5	39.9	4.3	9.3	35.2	25.9	市町域を跨ぐ利用者は、月平均12,660人で全体の95.5%を占める。利用の内訳は通学定期70.6%、現金・ICSFの定期外20.1%の順に多い。地域外からの沿線高校への通学利用の他、沿線地域の住民が鉄道を利用する際の利用が見られる。 《地域的・フィーダー的系統》 名鉄東部交通バス(一色線)、(西尾市)六万石くるりんバス、(西尾市)いこまいかー	継続してスマートフォンでの時刻検索、バスロケーションシステムの提供、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行う。
10豊田	名鉄バス(株)	名鉄バス(株)	03 矢並	豊田市～足助	HP・スマートフォンでの時刻検索システム、バスロケーションシステムの提供やコンテンツプロバイダーへのデータ提供をお行った。また、沿線の豊田市では、バスマップ等に本路線の情報を掲載するとともに、観光シーズンにおいてバス停案内を行うなど、利便性の向上を図った。	B 雨量規制による通行止で15本の運休、及び緊急事態宣言発令のため始発地を21時30分以降に発車の便が109本運休となったが、それ以外は所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B 目標：121,800 実績：105,643(86.7%) ※前年度比76.8%	48.3	39.7	3.4	11.7	45.9	33.8	豊田市と旧足助町を跨ぐ利用者は、月平均1,680人で全体の17%を占める。その内訳は、現金・ICSF(定期以外)66.1%、通学定期23.2%の順に多い。鉄道駅や中心市街地部への利用が大部分と考える。豊田市中心部から足助地区への通学利用も多い。 《地域的・フィーダー的系統》 おいでんバス(旭・足助線、稲武・足助線、さなげ・足助線)	継続してスマートフォンでの時刻検索、バスロケーションシステムの提供、コンテンツプロバイダへのデータ提供を行う。また、高齢者用定期券ゴールド・シルバーバスのPRを積極的に実施し、昼間帯の利用促進を図る。沿線の豊田市ではバスマップやHPなどへの路線情報の掲載により、利用促進を図る。
	豊田市	名鉄バス(株)	17 おいでんバス(旭・豊田線)	小渡～豊田市	交通系共通ICカードのODデータ取得による利用実態の把握、沿線やなでの飲み物サービス、「広瀬」バス停での乗り継ぎを考慮した他路線のダイヤ改正を実施した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅れもなく、所定の事業計画どおりの運行が実施された。	B 目標：95,498 実績：74,487(78.0%) ※前年度比96.4%	36.3	26.1	2.4	11.0	14.1	13.2	豊田市と旧旭町を跨ぐ利用者は、月平均1,240人で全体の14.6%と低い数値にとどまっているものの、市郊外から市中心部への通勤・通学手段として重要な役割を果たしている。また、広瀬バス停で乗降する利用者も一定数あり、バスを乗り継ぐ利用者がいると思われる。 《地域的・フィーダー的系統》 旭地域バス、小原地域バス、石野地域バス、藤岡地域バス	本路線は様々な観光施設や豊かな自然環境を有する地域を運行しており、こうした環境を生かした利用促進策を講じる必要がある。 新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮しながら、沿線広瀬やなでの飲み物サービスの実施や1日乗車券の導入などの利用促進策を検討する。